5　かわってきた人びとのくらし

(1)　学校のうつりかわり

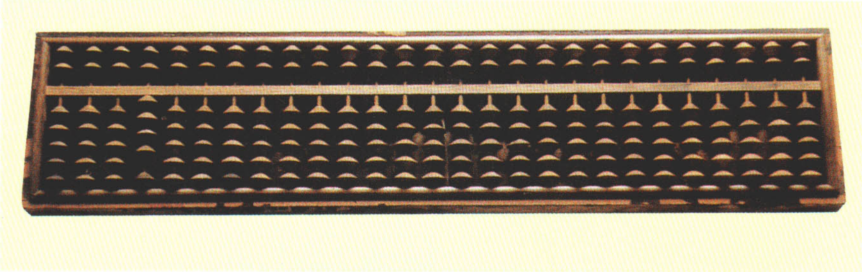
①　昔(むかし)の学校の様子

★　昔(むかし)の学校の様子を家族(かぞく)で話し合ってみましょう。

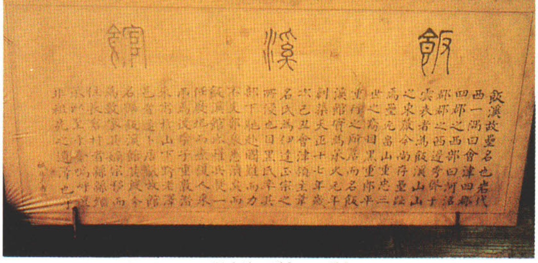
学　科	場　所	年　代	生徒数	教　師
筆道読書	大成沢	天保元年 (1830)	男 5	鈴木庄左衛門
〃	四ッ谷	天保元年 (1830)	男 8	菊地儀平
〃	かぶちゅう	天保2年 (1831)	男 7	二瓶宗五郎
〃	久保田	天保10年 (1839)	男 11	小野左京
〃	黒沢	嘉永元年 (1848)	男 7	伊藤三十郎
〃	砂子原	嘉永元年 (1848)	男 6	山内秦教
〃	〃	嘉永元年 (1848)	男 15	蓑田直衛
〃	牧沢	嘉衛2年 (1849)	男 7	天野保三
〃	湯八木沢	嘉衛2年 (1849)	男 7	小島左仲
〃	五畳敷	文久元年 (1861)	男 7	猪俣安次
〃	高森			佐藤義一
〃	柳津		男30女5	武井重蔵

▲寺小屋(てらこや)を開いた場所(ばしょ)・年代(ねんだい)・生徒数(せいとすう)・教師名(きょうしめい)

今から140年位(くらい)前には、五じょう敷(じき)に猪俣安次(いのまたやすじ)という人が開いた寺小屋(てらこや)があり、その時使われていたらしい大そろばんが残(のこ)っています。



▲大そろばん



▲飯溪堂(はんけいどう)の額(がく)

100年位(くらい)前には、長倉(ながくら)に飯溪堂(はんけいどう)という寺小屋(てらこや)があり、名主(なぬし)の目黒重介(めぐろじゅうすけ)・三郎親子(さぶろうおやこ)が教育(きょういく)にあたりました。学習(がくしゅう)の内容(ないよう)は、読み・習字(しゅうじ)・そろばん・漢文(かんぶん)などが中心でした。家族(かぞく)のひとりとして生活しました。